

流行ニュース :

< コレラ、ソマリア >

4月22日現在、2002年3月12日の集団発生以来、1,191症例(うち死亡例63例、致命率5.3%)がWHOに報告され、01型コレラ小川型が確定された。18地区のうち、Banadir(Mogadishu)、Shabelle地区下部(Merka)、同中部(Jilib, Haranka)、Hiraan(Belet Weyne)、Bari(Bossasso)の5地区が感染区域である。

今週の話題 :

< ポリオ撲滅のための世界的研究所ネットワーク貢献の拡大 >

1988年世界保健会議によって採択されたポリオ撲滅決議¹推進のため、ポリオ研究の世界ネットワークがWHOによって設立された。ポリオ撲滅の進行に従い²、研究所ネットワークは野生型ポリオウイルスゲノムデータの提供などの新しいプログラムニーズに適合するように、その役割を拡大しつつある。この記事は研究所ネットワーク活動の最新情報を提供する。

2001年12月には、147の研究所を含むネットワークが6つの地区WHOで活動していた。2002年3月末、135の研究所(92%)が認証され、4つの研究所が暫定的に認証された。2つの研究所は認証を審理中であり、2つの準国立研究所は認証の基準以下であった。

ポリオウイルス流行の発見は急性弛緩性麻痺(AFP)症例の監視システムの如何による。ポリオ研究ネットワークの基本的な役割は、ポリオウイルスが流行しているかのウイルス学的な証拠を提供すること、伝染を妨げる補足的な予防接種活動を行うことである。研究所の活動は、報告のタイムリーさ(ポリオウイルスの分離の結果を検体を受け取って28日以内にナショナルプログラムに報告されたか)と非ポリオエンテロウイルス(NPEV)の分離率によって評価される。2001年は、検体数がかなり増えているが、ウイルス分離結果報告までの時間は短くなっている(表1)。

表1: 研究所功績指標、WHO地域別、2000年-2001年

2000年に比し、2001年は検体処理数がかなり増加しているが、検体受領後28日以内にナショナルプログラムに結果報告した施設は90%以上に達し、ウイルス分離結果報告までの時間は減少している。

WHO 地域	2000					2001				
	検体	ポリオウイルス分離数		ポリオウイルス分離数		検体	ポリオウイルス分離数		ポリオウイルス分離数	
		野生型	弱毒型	NPEV- インテ ウイルス (%)	28日後 の結果 (%)		野生型	弱毒型	NPEV- インテ ウイルス (%)	28日後 の結果 (%)
アフリカ	11 891	160	664	9%	36%	18 515	63	979	14%	88%
アメリカ	1 495	0	31	15%	NA	3 404	0	41	15%	NA
東地中海	6 110	287	145	12%	80%	7 258	140	108	15%	83%
ヨーロッパ	9 092	0	143	6%	81%	4 716	2	130	16%	91%
東南アジア	20 442	272	387	16%	94%	19 752	268	268	19%	99%
西太平洋	10 636	0	235	12%	87%	10 798	0	227	11%	92%
世界	59 666	719	1 605	12%	77%	64 443	473	1 753	15%	92%

野生型: 野生型ポリオウイルス分離の症例数

NA=Not available.

AFP症例からのポリオウイルスの分離と同一血清型株の識別(ITD)という主要な機能に加えて、研究所ネットワークは全野性型ポリオウイルスの詳細な分子レベルの疫学的データを提供している。ゲノム配列情報と研究所間の緊密な共同作業により、国内及び各国間でウイルス種の追跡や、ポリオ非感染国³へ輸入されたウイルスの感染源の特定が可能となった。

2000年10月のドミニカ共和国とハイチでのポリオ集団発生⁴に関連したワクチン由来ポリオウイルス(vaccine derived poliovirus, VDPV)の検出後、ワクチン由来のポリオウイルスの伝播状況(circulating VDPV, cVDPV)もスクリーニングの対象に加えられた。cVDPVsは野性型ウイルスのような神経毒性と伝播性を獲得し、ワクチン株、野生株と分子レベルで異なる。2001年1月以来分離された全てのポリオウイルス株は、2つの検査(1つは抗原を用いた免疫学的検査、他は分子レベルでの検査)を受けている。これらの分離株はゲノム配列データにより、弱毒ワクチンウイルスと1%以下の相違は弱毒型様、1% - 15%の相違はVDPV、15%以上の相違は野性型ウイルスと分類される。

いくつかの研究所で2001年以前の非典型的とされた保管してあったポリオウイルスの再検査を行った結果、cVDPVの発生は非常にまれであることが示唆された。

AFPサーベイランスはウイルス伝播が始まったばかりのごく早期の段階では伝播ウイルスを検出するのは不向きなので、それに代わるサーベイランスシステムとしてcVDPVs検出には重要な役割を持つであろう。

* 編集ノート

2000-2001年の間、ポリオ研究所世界ネットワーク活動の質を高め、権限をVDPVsサーベイランスにまで拡大し、野性型ポリオウイルス2型の実質的撲滅の証拠を提供した。そのネットワークはWHO西太平洋地域での土着の伝染がなくなったこと、ポリオ非汚染国でのポリオウイルス輸入やcVDPVによる集団発生の発見、未だに伝播がある国々のポリオウイルスの除去を確定するという重要な役割を演じた。

便検体検査の結果報告がタイムリーであることは全ての地域、特にアフリカ地域で進歩した。全ての地域でNPEVの分離率が2001年までに10%以上の値が達成されたのは注目に値する。2000-2001年の画期的事件はムンバイ(インド)のエンテロウイルスリサーチセンターが特別研究所へ、ピョンヤン(北朝鮮)の研究所が暫定的な認証を受けた研究所へと昇格した。

進歩は達成されたが研究所はいくつかの挑戦に面した。ITDとゲノム情報分析の時間短縮が求められ、2000年末までにほとんど全ての野性型ポリオウイルスの分離報告は検体受領から45日以内に、2001年のほとんど全ての重要な分離株は最初の便検体受領から60日以内にゲノム配列情報を提供することが可能となった。これ以上の進歩のためには、検体移送領域での改善が必要である。

活動の拡張と時間短縮はITDとゲノム情報分析遂行の仕事を増加させ、研究所ネットワークに圧力をかけている。これらの改善のためには、地域研究所の充実が求められている。また自己満足とポリオ非汚染地域研究所へのサポートの削減は、輸入された野性型ポリオウイルスや、cVDPV出現の早期発見に対処しなければならないという大きな問題を生みつつある。NPEVの導入と環境サーベイランスは重要であるが、人的、財政的、物質的資源の点からみると、システムへの潜在的な負担が表出している。

このような問題からポリオ撲滅は野性型ポリオウイルス伝染がなくなる最終段階で危険になっている。全てのWHO地域は、世界的なポリオ撲滅が達成された後も、撲滅を確かなものとし、さらに維持するために、研究所ネットワークを十分にサポートしつづける必要があるであろう。

¹ WHA決議41.28, WHA41/1988/REC/1, p.72 ² No.13, 2002, pp.98-107. 参照³ No.43, 2001, pp.332-335 参照⁴ No.49, 2000, pp.397-398 参照

<食糧標準化における食品規格(Codex Alimentarius)評価、FAO-WHOの関連業績の評価> - 情報報告書および非公式コメントの募集 -

国際食品規格委員会(Codex Alimentarius Commission)はFAO/WHO共同食糧標準化プログラム遂行のため、1962年FAOとWHOにより設立された。FAOとWHOは現在世界の人々のニーズに効果的に対応し、発展途上国と先進国両方への世界的な食糧供給の保護と促進へのシステム改善のため、食品規格委員会を含む、FAO/WHO共同食糧標準化プログラムの業績の評価を行うことになった。本件に関する照会は、関連状況の情報とともにWHOのウェブサイト<http://www.who.int/fsf>で一覧することができる。評価の期間は、2002年3月から2003年初旬までの予定である。また一般の人々および政党からも非公式のコメントを招集する予定である。2002年5月13日までにコメントを送付されたい。送付先詳細はWER参照のこと。

流行ニュースの続報：<インフルエンザ>

カナダ(2002年4月13日)¹：4月初旬からNova Scotia地方でインフルエンザの流行が続いている。インフルエンザ様疾患の報告は例年と同程度予測数である。

チェコ共和国(2002年4月13日)²：インフルエンザ罹患率は流行閾値を下回っている。

ユーゴスラビア(2002年4月19日)²：インフルエンザの活性は低いままである。

フィンランド(2002年4月13日)³：4月第1週目から、国内の南部地域でのインフルエンザA・Bの小規模の集団発生が見つかっている。インフルエンザA(H3N2)がこの集団発生の主な原因となっている。

ギリシャ(2002年4月6日)³：インフルエンザの活動は3月末の週から、症例数は増加し始めている。インフルエンザBの局所的な集団発生は4月の第3週中Creteで発生した。今日まで、全ての分離タイプはワクチン種のB/Sichuan/379/99と抗原的に近い。

ニューカレドニア(2002年4月13日)⁴：インフルエンザの活動は3月の第3週から増加している。子どもと大人の両方に流行しているインフルエンザAによる集団発生が発見されている。Noumea郊外、主にPaitaでの患者数の増加はウイルスが都市部中に広まっていることを示している。参照：¹No.7, 2002, p.55-56, ²No.15, 2002, p.124, ³No.11, 2002, p.87 ⁴No.50, 2001, p.400 (岩崎孝子、春藤久人、中園直樹)